

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第6回 産業・経済部会
日時	平成23年1月19日（水） 午前9時30分から午前11時30分
会場	長野市役所第一庁舎8階 第1委員会室
出席者	作業部会員 （敬称略）
	関係課員

I 会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第5回 産業・経済部会 会議概要について 別添資料
- 4 第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱（案）【産業・経済分野】について
 - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系（案）
 - 5 いきいきと産業が育ち賑わいと活力あふれるまち【産業・経済分野】 <<資料1>>
 - (2) 政策5-1 賑わいと活力を生む観光・コンベンションの推進
 - 511 多様な観光交流の推進 <<資料2>>
 - (3) 政策5-2 活力ある農林業の推進と中山間地域の活性化
 - 521 未来に向けた農業の再生・振興 <<資料3>>
 - 522 中山間地域の農業振興 <<資料4>>
 - 523 豊かな森林づくりと林業の振興 <<資料5>>
 - (4) 政策5-3 特色ある産業の集積と工業の高付加価値化
 - 531 産業の集積と工業の活性化 <<資料6>>
 - (5) 政策5-4 魅力と賑わいあふれる商業の振興
 - 541 力強い商業への転換 <<資料7>>
 - (6) 政策5-5 人材の育成と雇用機会の確保
 - 551 安定した地域雇用の確保 <<資料8>>
 - 5 今後の予定について
 - 6 閉会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 4 第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱（案）【産業・経済分野】について
 - (2) 政策5-1 賑わいと活力を生む観光・コンベンションの推進
 - ①前期計画の現況と課題を見ると施策511-03の指標（誘致・支援するコンベンションの年間参加者数）の達成率が低いが、後期計画でこの対策に具体的に取組んでいくのか。
⇒経済不況等の影響もあり数値が大きく減少しているが、コンベンションビューローを中心に積極的な誘致・支援策を展開し、平成21年度の実績では上向きに転じている。後期計画でも引き続き誘致策を講じていくことになるが、現況と課題の中では、ワークショップでいただいたご意見を踏まえ「国際化」と「受入体制の強化」という視点を新たに加えた。

②ワークショップで出された意見を踏まえて変わっている部分もあるが、事業を展開するうえでどこに重点を置いていくのか。予算的な裏付けも含め、この内容をもとに展開されるのか。
⇒計画をどのように運用していくかということだが、総合計画に沿った市政運営をしていく中で予算との連動は重要。現在、庁内に総合計画の推進のための実施本部を設置し、予算編成も含め、重点を置く施策について総合計画に沿った形で取り組んでいる。選択と集中により、何に力を入れていくのか常に念頭に置きながら、総合計画を反映した形で予算を編成していくという考え方は、今後も引き継いで進めていきたいと考えている。

⇒観光分野で事業を実施する側の立場で携わってきたが、市では総合計画に基づいて施策を打ち出してきているということを実感した。新たな視点については重点を置いて進められることに期待したい。

③これまでのワークショップでは意見を出し合っただけで、内容についての議論がなされていない。前期でうまくいかなかったものについて後期でどうしたらよいかということが議論されないまま大綱(案)まで来てしまったという感がある。内容を見ても前期と同じ表現が並んでおり、新たな施策がなくて本当に良いのかと感じている。これまで何をやってきて、今後、何をどうやっていくのかというアクションプログラムの部分も見えてこない。

⇒これまで、ワークショップでいただいたご意見について、行政側で認識している現況と課題や今後の方向性等を踏まえ、前回の作業部会で大綱まとめ(案)として整理させていただいた。それを基に、基本施策と施策の体系を確認し、基本施策の方針と現況と課題を文章として整理させていただいたが、次回以降で施策の主な取組を検討していくことになる。現在、ご議論いただいている内容については、主に全体の骨組みの部分になると思うが、今後、主な取組について議論していく中で具体的な内容が見えてくるものと考えている。

(3) 政策5-2 活力ある農林業の推進と中山間地域の活性化

①今後、農業振興に力を入れると聞いているが、農業についてこれまでと大きく変わった部分が無い。市で農業振興を大きく打ち出していくという視点が市民に見えないのではないのか。

⇒確かに、どこをどう変えていくかという点が見えてこない。

⇒長野市は何に力を入れていくのかということが、施策の表現によって見えるのではないのか。

⇒基本施策521にあるものはほとんど達成できていないというのが実情。施策521-01(地域農業の確立と経営基盤づくり)では特に人づくりの視点が重要だと考えており、農業後継者の確保と新規就農者の育成に向け、市内外からの就農者の公募を行う予定でいる。施策522-01(中山間地域の特性をいかした農業の振興)の中では、生産意欲の減退と耕作放棄地の増加につながる鳥獣害への対策が重要と考えている。このほか、一般の会社員並みの収入を得ることが難しいという点も大きな課題である。自ら販売先を見つけてうまく事業を展開している人はある程度の収入を得ているが、実際にはそうでない人の方が多い。法人化や六次産業化による高付加価値化等の視点も重要である。これらの具体的な取組については、今後、施策の主な取組の中で整理していきたいと考えている。

⇒そのような内容が、施策名称から読めない。何をするか取組を見なければ分からないということになる。施策名に「地域農業」というような分かりづらい表現を残すより、「ブランド化」というような分かりやすい表現を用いるなど、施策名称を見ただけでこうしていくというものが分かるようにした方がいいのではないかと。

⇒「地域農業」については、ようやくそのような方向に動いてきたのではないかと感じている。今までは個々の農家が苦勞してきた。かつては農協が中心になり集落営農や農業指導を進めていたが、農協を中心とした体制が弱くなってきており、行政の農業政策の中で農業振興を図っていかねばならなくなってきた。個々の農家からは、どこに行っても相談にのってもらえよいか分からなくなったという意見も聞こえてくる。

⇒基本施策の表現については、様々なご意見があると思うが、10年の基本構想の途中段階ということを考えれば、前期計画の表現から大きく変えること自体がおかしいのではないかと考える。達成率が低いものについては、施策の主な取組の中で、具体的な対策を記してカバーできるということなので、基本施策の表現自体を踏襲したとしても問題ないのではないかと。

⇒前期計画を踏襲していくのであれば、最初から前期計画の内容についてどうかという進め方をすべきだったのではないか。ワークショップを開催し何でも良いから意見を出してほしいという進め方だったため、意見を基に後期計画を作り直すものと思っていた。ただ、前期の委員さんが一生懸命考えて策定した前期計画を、委員が変わったからといって大きく変えてしまうのもどうかと思う。

⇒前期と後期の委員の考え方はさほど変わっていないのではないか。情勢が大きく変わっていない中で、農業に対する考え方も大きくは変わっていないはず。それだけに進捗率が低いままというのが現状だと思う。基本的には大きく方向性を変えるようなものは無いと理解しているが、文章の表現が行政的で分かりづらいため、もう少し市民が理解しやすい表現に変えたらどうかと思う。

⇒前回までの会議で、ワークショップでの意見や前期計画の状況等を踏まえたうえで、基本施策の名称と施策の名称をご了承いただいたが、修正があればお直しいただいても構わない。基本施策や施策の名称については、多様な取組を網羅しなければいけないため、ある程度の広がりを持った表現にならざるを得ない。いかに端的にまとめるかという点も考慮する必要があるため、端的で分かりやすい表現があればご意見をいただければありがたい。

⇒この作業部会以外で、庁内の担当課による会議を開催しており、表現については内部でも検討してきている。例えば、施策 541-02 の「意欲的な取組への支援」という表現が分かりづらかったので、「創業者や意欲的な商店街の取組への支援」と具体的にしたものもある。政策 5-2 については、前期でできなかった部分を後期も踏襲していくという内容となっているが、市も農業に力を入れていくという中で、後期を進めるにあたって表現を変えた方がいいというものがあればご意見をいただければありがたい。

⇒確かに、これだけの内容を端的にまとめるのは難しいという面もある。言葉ではなく、内容が大切ということもあるので、施策の名称で伝わらなくても市民の皆さんに分かりやすく伝えられるような計画にしていきたい。

⇒前期計画と変わっていないということは志半ばということで解釈し、後期計画に引き継ぐ中でレベルアップしていくということで理解していただく必要もある。

⇒2月9日の審議会で計画の骨組みとなる大綱について決定していただくが、答申までにはまだ時間がある。必要があれば、元に戻って必要な修正を加えるということも考えられるので、それを踏まえて今後のご議論をお願いしたい。また、当初の策定の進め方や段取りについて説明が不足している部分があった点についてはたいへん申し訳ない。

②「六次産業化」とあるが、一般的に認知度があるのか。

⇒昨年の12月に法律ができたが、まだ一般には浸透していないかもしれない。

⇒一次×二次×三次で六次ということである。

⇒足しても六次になる。一次から三次まで分けずにつなげて展開することで、付加価値を高め、収益を上げていくという取組のこと。

⇒今年度から特に頻繁に使われるようになってきた。この12月市議会でも六次産業化について議員さんから発言があった。

⇒ここでは、長野らしい六次産業化ということになるだろう。

⇒農業だけではなく、加工部門を入れたり、流通部門を入れたり、それぞれの組み合わせで進めていくのが六次産業なので、長野らしい品物や加工の仕方など工夫しながら他と競争していく必要がある。

③木質バイオマスについて記載があるが「木質ペレット」については入れなくてよいか。

⇒次回以降、主な取組の具体的な内容を検討する中で考えていきたい。

⇒ペレットについては、大枠では木質バイオマスの中に含まれる。基本施策の方針の中では、「森林資源の活用」という表現の中で木質バイオマスについても読み込めるようにしてある。

(4) 政策5-3 特色ある産業の集積と工業の高付加価値化

①現況と課題の3つ目にある「地域の産業競争力の底上げに向けた支援」という表現については、その上の2つの内容と重複していると思うが。

⇒前期計画の策定時の考え方として、長野市にもともとある地場のものづくりの力を向上させていくといった視点と、県外からの企業誘致やカーボンナノチューブのように新たな産業の創出といった視点の2つの視点を持っていた。この表現は、もともとある地場のものづくりを底上げしていくという意味で書かれたもの。

⇒ここにあって出すと、他の項目に書かれた内容以外に支援策があると思うのではないかと。製造品出荷額や事業所数が減少しているという事実だけ書いておけばよいのでは。

⇒確かに、支援策としては重複している部分がある。前期計画から大きく変わっている部分ではないのでそのまま残したもののだが、上の2つの項目でも具体的な内容が書かれているので3つ目の項目は削除しても構わない。

⇒前期計画には製造品出荷額等について図表などの資料を掲載しており、指標に用いているということもことから、あえてこの点に触れているということかと思うが、ご指摘のとおり、削除させていただきたい。

⇒「製造品出荷額や事業所数が減少する中」という表現については、事実としては重要なことなので、1つ目の文頭にそのまま追記して、一つの文章にさせていただきたい。

⇒この通り決定

②施策531-01（産学行連携の推進とものづくり産業の振興）の主な取組の中に「市内の商工団体の統合の促進」とあるが、既に統合が済んでいるので削除しても良いのではないかと。

⇒ご指摘の項目とその上の項目「商工業の指導体制の強化に向けた商工団体への支援」については、施策541-03（地域商業の強化と環境整備）にも同様の表現があるため、この項目は施策541-03の方で残して施策531-01からは削除したいと考えている。実際に、商工会議所や商工会は、大きく商業と工業とに分けられるため、前期計画では両方の分野に掲載しているが、重複する部分であるため、施策541-03方でいかしたらどうかと考えている。次回の会議の中で整理してお示ししたい。

⇒これまでに、3つの商工会議所が1つに、9つの商工会が1つになったが、市としては商工会議所と商工会も統合するように進めてほしいと考えている。

⇒商工会議所と商工会の統合は、大きくなり過ぎるという点や、性格や法律も違うという点で基本的には難しい。

⇒第一段階としては、信州新町と中条の商工会を長野市商工会に統合するところからお願いしている。もともと、商工会議所法は市に商工会議所、商工会法では、町村に商工会を置くこととしており、町村が市に合併する場合、長期的には1つの商工会議所に統合していただくというのが大前提であるため、時間をかけながら関係者と行政とで話をしていきたい。また、市内に商工団体が1つであることが望ましいという基本線があるので、現実的に難しい課題ではあるが、市の方針として項目は残しておきたいと考えている。

⇒市では統合が望ましいということだが、我々からすると考えてしまうところがある。メリット、デメリットを明確にしながらい進めていただきたい。

(5) 政策5-4 魅力と賑わいあふれる商業の振興

①現況と課題の3つ目に「通信販売」とあるが、増加しているネットを入れた方がよいのでは。⇒インターネットという言葉を用いて整理させていただく。

⇒この通り決定

②施策名称で「創業者」という言葉があるが、これは個人をイメージしているものか。

⇒創業は個人に限らず会社を立ち上げることもある。前期計画の148ページにも「創業」という言葉用いており新しい視点ではない。元の施策名称「意欲的な取組への支援」だと何の分野の取組なのか分からないため言葉を補ったもの。

⇒創業というと新たな事業を支援するという事なので、あえて「者」を入れなくても良いのでは。

⇒商店街と対比して個人を表現しているものではないか。店舗を立ち上げる若手も増えているのでそれをイメージしているものかと思うが。

⇒空き店舗の解消としては、個人や会社が空き店舗に入る場合もあるが、商店街が店舗を借りてコミュニティスペースを設けるなどの共同事業も想定されるので、そういう意味合いで分けて表記している。

⇒今までも個人に支援していたのか。

⇒現在も、中心市街地の空き店舗を活用して商売を始めたいという人には市が直接補助金を出すという仕組みがある。

⇒創業者の「者」はこのままでも構わないか。

⇒「者」は残しても構わない。

⇒この通り決定

③郊外に大型店が増加し商店街の活力が低下しているという状況において、施策名称の「意欲的な商店街」という表現には違和感があるが。

⇒「商店街の意欲的な取組」とした方が良いか。意欲的でない創業者はいないと思うので、商店街の取組の修飾語として限定したいということであえて先に付けたもの。

⇒いただいたご意見を踏まえ、「意欲的な」と「商店街の」を入れ替えて「創業者や商店街の意欲的な取組への支援」とさせていただく。

⇒この通り決定

※以上のとおり修正することとし、作業部会として後期基本計画大綱（案）を決定した。

◇その他

①他の分野でも同じような会議が開かれており、それぞれ持ち寄って審議会で決定いただくということだが、作業部会で決定した内容が変更になる場合もあるのか。

⇒審議会の委員さんからご意見をいただき修正が加わる場合もある。

②他分野と関連するところもあると思うが、調整しながら進めているのか。

⇒事務局レベルでは調整を図っている。今後、審議会に諮る中で分野ごとの調整を進めていきたい。また、共通する部分については、できるだけ分かりやすくお示しするようにしたい。

③それぞれお忙しいお立場ではあるが、別途、作業部会員で意見を交換する場を設けても良いのではと思うが。

⇒これまで、タイトなスケジュールの中で、会議の直前に資料をお渡しすることが多くご迷惑をおかけしている。今後、作成を進める施策の主な取組については、皆さんからの意見を踏まえながら相当なボリュームを整理していくことになるので、短期間での確認ではなく、皆さんからご意見をいただく時間をできるだけ多く設けたいと考えている。

⇒1項目毎もう少し時間をかけられるようにご配慮いただきたい。

④第7回以降の予定は決まっているのか。

⇒次回までに具体的にどんなことをしてくればよいか。

⇒事務局の方から24日までに案として示されるのか。

⇒本日、ご決定いただいた大綱（案）については、2月9日の審議会で提案し決定いただくが、その前に庁内の部局長会議を開催し庁内での調整をさせていただく。施策の主な取組については、事務局案を作成し24日に皆さんにお示しさせていただく。その後、少し時間をかけて皆さんから意見を頂戴し、4月末までに決定していくということで考えている。スケジュールについては、2月9日の審議会でご決定いただいたうえで、2月24日の作業部会で皆さんにお示ししたいと考えている。